耐久性あふれる皮の絵画 ボッティチェリの夢を今に

TATSUKI TOKURIKI

Industrial Artist

世界中で、たった3人だけがその技を知っている芸術がある。この情報過多の世においてである。彼らの名は徳力彦之助・康乃夫妻と次男の竜生さん。彼らが極めようとしているのはイタリア語ではCUOI D'ORO（クオイドーロ、黄金の革の意味）、日本では金唐革と呼ばれてきた皮革工芸である。

金唐革、CUOI D'OROといわれても聴いたことのある人はほとんどいないはず。生まれたのは15世紀のイタリア・ルネッサンス期において、親はその時代を代表する画家ボッティチェリと推測される。革の宝石と賞賛され、建物の壁面や天井を飾るなど、瞬く間にアートの世界を魅了した金唐革は300年の間もてはやされ、以後ぷっつりと姿を消すことになる。理由は定かではないが、もっと簡単な手法で表現することのできる油絵に移行していったものと考えられている。

繁栄の妨げともなった技法とは？よくなめした牛の皮に特殊な接着剤を塗って金属泊を貼りつける。これをシリコンなどで作った雄型と雌型の間にはさみ、作品の大きさにもよるが20トンといった圧力をかけ、紋様を浮き出させる。型出しした作品をまず金色に彩色し、あとは作品に合わせて様々な色で描いていく。2m×3m近い大作からバレッタやロケットに使うごく小さなものまで大きさは自在。型出しまでは同じものができるが、彩色するときには二度と同じ色にはならないので、ぶっつけ本番の感がある。

画家・徳力彦之助さんが、18世紀以降途絶えて誰にも伝えられなかった技法を研究し、ようやく完成といえるまだになったのはここ10年ほどのこと。試行錯誤を重ねる姿を子どもの頃からつぶさに見てきた竜生さんだったが、特に跡を継ごうという考えはなかったという。しかし美術の世界には進みたいと思っていたので、CUOI D'ORO発祥の地であるヨーロッパではなく、モダンアートの旗手であるアメリカへの留学を決意。そのとき母である康乃さんは「やっぱり私たちの跡は継いでもらえないんだな」と内心がっかりしたという。事実、芸術家である両親の厳しい目から逃れ、4年半どっぷりとアートにつかり自由を満喫していた。しかし卒業と帰国が近づくにつれ、竜生さんの中に自然に両親の跡を継ごうという気持ちが芽生えてきた。離れているからこそ真の姿に気づくということもある。皮肉なことだが、竜生さんの場合もそうだったのかもしれない。「あんな素晴らしい表現の方法を両親は持っていたのだ。そして3人目になれるのは自分しかいない」ことに気づいたのであろう。

帰国してすぐに制作に取りかかってみて愕然とした。あまりにも身近にあったために、かえってCUOI D'OROについて何もわかっていないことを思い知ったのである。だが持ち前の明るさと現代っ子らしい回復力で彼は思い直す。「わからなかったら学んでいけばいい。知らなかったら開発していけばいいじゃないか。これから先は前人未到の世界。プレッシャーはあるけど、切り開く楽しみもある」と。

右京区太秦にある洋館。近所の人からはオバケ屋敷と呼ばれているとか。イギリスの船の建材を使って建てた瀟洒な造りである。工房、兼自宅であったが昨年ギャラリーとして門戸を開放した。長年の謎であった〝オバケ屋敷〟が見られると近隣の人々がこぞって足を運んできたというエピソードもある。彦之助氏作の力強く年輪を感じさせる大作、康乃さんの女性らしい思いやりにあふれた優しい作品、あれもこれも様々な想いを形にしてみる意欲的な竜生さんの作品が一堂に展示されている。これらを統括しマネージメントするのが長男の雪哉さん。芸術家ファミリーが各々の持てる力を結集してライフワークに取り組む姿は感動的である。

金唐革が日本に紹介されたのは、今回がはじめてのことではない。江戸時代、オランダから大量生産に成功した作品が輸入された。それらは日本の建築には合わなかったものの、裁断されて箱に貼られたり、煙草入れや紙入れに仕立て直され、粋を好む江戸っ子の人気の的に。だが輸入量が少なかったため、金唐革は一部の金持ちだけの楽しみだった。それも度重なる天災や戦争にほとんどが消失し、今残されているのはほんのわずか。竜生さんはいう。「金唐革、今回は生き残れるか。それは僕にかかっている」と。

ライター／小林明子

photo by M.OHTA

困難ゆえに絶えた幻の技を父が再現し子がそれを継ぐ。

徳力竜生

BORN in 1964

1964年、京都に生まれる。1988年に米国カリフォルニア州立大学ロングビーチ校美術学部卒業後、帰国。京都にて本格的にCUOI D'OROの製作に取りかかる。1990年に制作会社CELLI DESIGNを設立、翌年西陣の町家にて個展開催。昨年太秦の工房の一角にギャラリー・チェリをオープン。CUOI D'OROをよりアピールすることに心血を注いでいる。

Cal